

3カ月で外壁職人を育成

3カ月でさまざまな分野の職人を育成する職業人大学(プロフェッショナルカレッジ=略称プロカレ/愛知県名古屋市)が、2月から外壁工事とスマホアプリ制作カリキュラムの第2期講義をスタートさせた。学長は、ウィルコムやLIXIL傘下のK-engineの社長を歴任した喜久川政樹氏。わずか3カ月で職人を育てるといふプログラムの中身と今後の展望を聞いた。



経歴
1963年広島県生まれ。早稲田大学卒業後、第二電電(現KDDI)入社。ウィルコム代表取締役社長、LIXIL執行役員、K-engine代表取締役社長を歴任。

実技講習2週間

——プロカレでは分野を問わず、3カ月で職人を育成するそうです。すね。

講座は現在、「寿司職人」「スマホアプリ製作者」「外壁工事職人」の3つです。もともとは私の知人が、3カ月で寿司職人を育てるといふ学校を経営していて、それを見て、職人の短期育成というコンセプトは他業種でも実現可能ではないかと考えました。

そこで、他社と連携し、「スマホアプリ製作者」「外壁工事職人」の2講座を昨年の12月からスタートさせました。

——外壁工事はどうでしょう。座学だけでは難しいのでは。

外壁工事の場合は、3カ月のうち14日間は実技講義を受けてもらいま

Interview

プロフェッショナルカレッジ 喜久川政樹学長

きるメリットがありません。費用はアプリ製作講座同様に30万円です。

——技術を身につけたあとの就職支援などはどうでしょう。

プロカレの目的は、就職というよりは個人事業主を育てることです。終身雇用の安定が崩れ、働き方の多様化が進んできましたら、個人事業主へのニーズは増えてくるはず。ですから、アプリ製作、外壁工事ともに仕事幹旋に近いことをやっていく予定です。どちらも、パートナー企業から仕事を請け負うこともできますし、自分で営業してもらってもいい。

実技以外の座学はすべてWEB講義。現地調査から工事終了までの現場の作業がわかる動画も用意し、基礎知識を蓄えた状態で現場講習を受ける流れです。施工で使うのはアルミサイディング。軽量で、作業でも汚れにくいので女性でも施工で大マーケットです。外壁

なら一つの工事で約40万円、1カ月に2棟こなせば80万円の利益が出ますし、個人事業主は節税部分も大きい。教育投資を自分で取り返せるモデルです。

不足している分野へ

——そもそも、なぜ外壁とアプリ、すし職人なのでしょう。

高い需要があるのに職人が圧倒的に不足している、かつ将来的にも不足が予想される分野だからです。外壁に関しては、私自身が直前まで住宅業界にいたので職人不足の深刻さを知っていた。一方のアプリの方は、地域密着の中小企業ほどアプリがあれば能動的なマーケティングができるのに、制作費が数千万円と高すぎて手が出せないというひずみがあったから。作り手を増やすことでそうしたミスマッチを修正できればと考えました。

——今後は分野をさらに広げていく予定ですか。

社会的ニーズがあるのに作り手が圧倒的に不足していて、なおかつ、そこをAIやITでカバーできない分野なら考えていきたいです。ただ、個人事業主としてフレキシブルな稼ぎ方ができる環境も必要なので、そうしたことも理解してくれるパートナー企業を見つけることが先決です。

私のポリシーである「人の役に立つ」を念頭に置きながら、不足している職人を3カ月で育てるプラットフォームを目指していきたいですね。

2期目の講座がスタート WEBと実技で高まる需要に応える